

6月議会議案審議

採決結果

町長提出議案一覧

議案番号	区 分	議 案 名	審議採決の結果
議案第37号	条例	和水町課設置条例の一部改正について	原案可決
議案第38号	条例	和水町特別会計条例の一部改正について	〃
議案第39号	条例	和水町介護保険条例の一部改正について	〃
議案第40号	条例	和水町災害弔慰金の支給等に関する条例の一部改正について	〃
議案第41号	補正予算	令和元年度 和水町一般会計補正予算（第2号）	〃
議案第42号	補正予算	令和元年度 和水町介護保険事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第43号	補正予算	令和元年度 和水町特別養護老人ホーム事業会計補正予算(第2号)	〃
議案第44号	補正予算	令和元年度 和水町下水道事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第45号	補正予算	令和元年度 和水町後期高齢者医療事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第46号	補正予算	令和元年度 和水町病院事業会計補正予算（第1号）	〃
議案第47号	当初予算	令和元年度 和水町住宅用地造成事業会計予算	〃
議案第48号	その他	熊本県市町村総合事務組合の共同処理する事務の変更及び規約の一部変更について	〃
議案第49号	その他	工事請負契約の締結について	〃
議案第50号	その他	工事請負変更契約の締結について	〃
同意第4号	人事	和水町固定資産評価員の選任について	原案同意
報告第1号	報告	平成30年度 和水町一般会計繰越明許費繰越計算書について	報 告
報告第2号	報告	平成30年度 株式会社 菊水ロマン館の決算報告について	〃

議員提出議案一覧

議案番号	区 分	議 案 名	審議採決の結果
発議第3号		「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」の提出について	原案可決
	その他	閉会中の継続調査について（各委員会）	原案決定

6月定例会賛否一覧表

議 案			議員名											
			荒木 宏太	白木 淳	齊木 幸男	坂本 敏彦	竹下 周三	高木 洋一郎	秋丸 要一	松村 慶次	庄山 忠文	池田 龍之介	森 潤一郎	蒲池 恭一
議案第43号	補正予算	令和元年度 和水町特別養護老人ホーム事業会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	※

※議長は可否同数または特別議決の時以外表決に参加しません。

令和元年度 一般会計補正予算

5億1,327万4千円を追加!!

総額 73億6,592万2千円に

令和元年
6月
定例議会
報告

令和元年6月定例議会は6月10日から14日までの5日間の会期で開催され、令和元年度一般会計補正予算など14議案（条例4件、予算関係7件、その他3件）と同意1件、報告2件、発議1件が提出され、それぞれ承認された。

条例改正では、本年10月の消費税増税に伴い低所得高齢者（生活保護受給高齢者と市町村民税非課税の世帯の高齢者）の介護保険料を引き下げるよう介護保険条例を改正した。

一般会計の主な補正予算は、菊水地区小中学校統合に伴う学校給食共同調理場の改築事業に3億9,860万円、旧老人福祉センターと旧農業就業改善センターの解体事業費が約6,100万円などとなっている。

定住対策の一環として、宅地造成を進めるために新たに住宅用地造成事業会計が新設され、設計・調査業務のために1,790万円余が予算化された。

最終日に追加提案された議員発議の「新たな過疎対策法の制定に関する意見書」は、現行の過疎対策に関する法律が令和3年3月末で失効することから、国に対して新たな過疎対策法の制定を要望するもの。

一般会計・特別会計補正予算

会 計 名	補 正 額	総予算額
一般会計	5億1,327万4千円	73億6,592万2千円
介護保険事業会計	△38万1千円	14億9,341万2千円
特別養護老人ホーム事業会計	2,047万1千円	5億1,716万7千円
下水道事業会計	787万7千円	7,066万3千円
後期高齢者医療事業会計	85万円	1億5,804万2千円
病院事業会計	618万3千円	8億8,161万3千円
住宅用地造成事業会計	1,791万6千円	1,791万6千円

* 一般会計は上述の事業のほか国・県等の補助金獲得による事業追加や4月の人事異動に伴う補正、住宅用地造成事業会計は上述の業務委託料、その他の特別会計は4月の人事異動に伴う人件費の補正。

ズバリ!聞きます 一般質問

6月定例会では9名の議員が一般質問を行いました。主な質問事項は次のとおりです。

荒木 宏太議員 4P	• ついに人口1万人をきる!
池田 龍之介議員 5P	• 《新歴史民族資料館》早期実現を!
坂本 敏彦議員 5P	• 幼児英語教育の現状 • 菊水地区小中学校共同調理場について
高木 洋一郎議員 6P	• 公共施設の今後の管理・運営について • 学校給食共同調理場は開校時に必要だ

*一般質問の記事は、質問した議員が600文字程度に要約したものです。原文を尊重していますが、一部編集しています。
*発言が「～である。」調で記載していますが、質問・答弁は丁寧語で発言されています。
*会議録は町の公式ホームページで閲覧できます。

松村 慶次議員 6P	• 人口減少の対策について • 通学路の整備について
森 潤一郎議員 7P	• 観光振興対策について • 菊水共同調理場建設について
秋丸 要一議員 7P	• 町行財政健全化とまちづくり推進について • 住宅促進政策関連事業について
齊木 幸男議員 8P	• 歴史と文化が色づく豊かな町づくりについて • 生活基盤整備と交通安全、宅地造成と移住・定住化について • 子育て教育・産業振興・観光と、移住・定住化について
白木 淳議員 8P	• 和水町職員の働き方と健康管理について • 和水町のインバウンド政策について • 和水町の広報PRについて



池田龍之介議員

先人の想い、夢、だった、
県道沿いに、見える化を図った、
(仮称)江田船山古墳資料館建設、
《新歴史民俗資料館》早期実現を!!

問 どの様な観光スタイルを確立し観光振興を实践したいのか、具体的な考え、アイデアを持っているのか問う。

答 (町長)一過性のものではなく、継続可能な運営による地域活性化をめざしたい。また、歴史民俗資料館については、老朽化による安全性、維持管理費の増大が懸念され、存続か、代替え施設、新資料館の建設を視野に入れた検討が必要では。

問 江田船山古墳出土品は、熊本県内出土文化財および県内文化財の唯一の国宝であり、特別史跡、国宝格の熊本城と双壁をなすと紹介されており、3年前、町史談会からも新資料館建設の陳情書及び出土品里帰り展の実現要望書を議会で採択をしており、国が推進した風土記の丘事業(肥後古代の森)は全国に16箇所と学術的にも国も

重要性があると認めており、肥後古代の森事業と並行して万世の都構想展開において、土地の無償提供者、施設充実の為の寄贈者等の想いを忘れることなく、また、文書化はないが、土地購入時に於いて、県は、新資料館建設は全面協力すると、口約束ではあるものの、地権者の方々に約束されているが、未だ、履行なし。さらに、肥後民家村、田中城ミニミュージアムの入場無料から有料化の検討、人の思いは『無料』と言え、たいした事のない施設であると思いがちであり、町の宝をもっと誇れる施設として、活性化につなげてほしいと、強く切望する。

答 (町長)自分も金を払って初めて、やっぱり一緒になって勉強もするだろうし、このありがたみが出てくるんじゃないかと思うので、有料化については大いに早急に検討すべきことかなと思う。



荒木 宏太議員

ついに人口1万人をきる!

問 和水町の現在の総人口は。

答 (町長)5月31日現在の住民基本台帳の総人口は9982名となっている。そのうちの18歳未満の人口は1231名で12・3%、65歳以上の人口は4024人で40・3%である。

65歳以上の人口においては昭和60年の19・4%から35年間で2倍まで上昇し、少子高齢化が深刻化していることが窺える。これから、町を担う若者世代が減少していくことは町づくりや町の産業等の担い手が不足することから若者世代が本町に残りたいと思えるような取り組みを行うことが一番である。

問 少子化高齢化への具体的な対策は。

答 (町長)定住移住促進、子育て支援、農林水産業の振興のすべての項目、事業を確実に実践していくことが重要と捉えている。

問 定住促進対策は。

答 (町長)都市部からの定住、移住者の受け皿として、町所有地を基本に、住宅用造成地事業、空き家バンク事業を活用し、移住定住施策を重点事業として取り組む。今年度は老人福祉センター跡地の住宅用宅地造成事業を開始する。



坂本 敏彦議員

幼児英語教育の現状と
菊水地区小中学校共同調理場の
建設計画の経緯を問う

問 幼児英語教育が4月よりスタートし2カ月が過ぎ現状と幼児英語教育から小学校の英語教育の継続性を問う。

答 (町長)私の選挙公約の重要事業の一つ幼児英語教育導入については、今年度から予算化し、4月11日からスタートしている。先般神尾保育園を見学し子どもたちの反応を窺うと、子どもたちは目を輝かせ夢中に英語活動しているのが非常に印象的で、この英語教育をやつてよかったと改めて感じた。

小学校英語教育の継続性については、幼児期から小学校1・2年生も含め英語教育を継続する事で、その効果は必ず達成でき、いい結果が出ると思う。

答 (教育長)幼児の英語活動を参観して先生の発せられる英語の音声に興味をもって反応し感覚的に英語を吸収していき外国語や外国の人を違和感なく受け入れる素地になると思う。継続性については、今後、和水版幼児期から小学校3・

4年の外国語活動につなぐカリキュラムの検討をしていく必要があると考えている。

問 菊水地区小中学校共同調理場の建設計画はなぜこれまでなかったのか。

答 (町長)事業費の面などから年次計画での整備が進めると前町長、前教育長の意向であつたと理解しているが、子どもたちの食の安全確保の面からも早い整備を考えている。

4月に国庫補助の内定を受けており、今回皆様のご理解をいただき事業に取り組みたい。

問 今後、児童生徒の減少が懸念される10年、20年後の活用方法を考えているか。

答 (町長)児童生徒数の減少は当然あり得る。将来1カ所に集約する時期が来るかもしれない。その時に対応できる体制を今回設計段階で考慮し合理性の追求の余地はあると思う。



公共施設の今後の管理・運営について…
民間事業者への譲渡などを考えてはどうか…
学校給食共同調理場は、開校時に必要だ…
いつの間にか消えていた…

問 指定管理している温泉施設の今後の運営方法についてどのように考えているのか。

答 (総務課長) 公共施設総合管理計画の個別計画を策定し、令和2年度までに施設ごとの方針をまとめることとしている。

問 民間事業者に譲渡するなどして行政のスリム化を図ってはどうか。指定管理している施設は、指定管理者の努力と意思だけでは決定できない利用料金、営業時間、大規模改修、長期経営戦略などがある。

答 (町長) 何もかも、行政がする時代は終わつたと考える。経営権を手放すことも一つの方法だと思う。

問 旧神尾小学校跡地の活用・開発はどのように考えているのか。

まとめ アンテナを高くして情報収集しながら、民間資金の活用を含めた学校跡地の開発を期待する。

問 学校統合に関する住民投票時の広報なごみ耐震改修案に存在した共同調理場が、いつの間にか消えていた。どういうことか。

答 (町長) 年次計画での整備だと理解したが、開校時には必要な施設であると考えて、改築予算を計上した。

まとめ 学校給食調理場は必要な施設である。それを含めて学校統合事業は当初計画の21億円程度で完了する見込みのようである。

しかし、新築案で進められた事業のうち、校舎設計料と国への返還金の2億3600万円と番城グラウンドの原状復旧見込額約2億円を合わせた約4億3600万円超が無駄になることを、忘れてはならない。



人口減少の対策について
通学路の整備について

問 移住定住には、安心安全な住環境整備が必要である。町内での就労の場も必要である。町長の考え、今後の方針については。

答 (町長) 第二次和水町まちづくり総合計画で、移住定住者に町有地を基本に、住宅用地造成事業、空家バンク事業を活用し、重点事業として取り組む。学校跡地を含めた町有地の有効活用による企業誘致を実施して就労の場の充実に努める。

問 内田地区に、町有地の工業団地が塩漬け状態である。今後の方針については。

答 (町長) 現状を早急に視察して検討する。

問 日常買い物に不便を感じる買物弱者に、移動販売により支援されている事業がある事を町長はごんじか。

答 (町長) しっかり貢献していたいてい受けてっている。

問 通学路の整備について、町内の小学生は、主に来年度からスクールバス通学になるが、中学生の自転車通学には道路状況により危険箇所が見受けられる。対策は考えているか。

答 (教育長) 毎年危険箇所の安全点検を実施し、職員全員で共通理解を図って、交通安全指導に取り組んで安全確保に努めている。

問 玉名山鹿線は、大型車の通行量も多く、中学生の自転車通学は危険箇所もある。道路改良が早急に出来ないのであれば、指定通学路は特に路肩の泥の排除、草刈り等を強く県へ要望お願いしたい。

答 (町長) 道路整備推進委員会も含めて要望していく。



江田船山古墳、
肥後民家村一帯の活性化は？
どうなる菊水共同調理場！

問 肥後民家村内の一部施設が休業したり、入場者総数が少なくなった印象を受ける。「生かし方をもう少し工夫すべきだ」という声をしきりに聞く。入場者の推移はどうか。

答 (町長) 肥後民家村の入場者は平成28年1万4301人、29年2万3439人、30年1万6970人である。

問 国宝出土から150年にあたる令和5年を目途に地元での里帰り展開催を文化庁に陳情する署名活動を菊水史談会が始めるのとこのだ。この里帰り展実現に万難を排して協力すべきだと思ふし、署名運動を支援する意味でも庁内にプロジェクトチームを置くなりして5年先を目途に同資料館の移転新築などに取り組むべきだと思う。町の考えはどうか。

答 (町長) 今の資料館は老朽化し



財政健全化のため
公共施設の統廃合や
機能移転の見直しは、
待ったなし

行財政健全化と町づくりの推進について

問 重複公共施設の集約化、施設の管理、各種行事等の運営面での簡素化、改革は進んでいないと認識しているが、町長は、どう認識されているか。

答 (町長) 精査して統合、除却など検討する時期に来ている。身の丈に合った施設の保有数、配置の見直しなどを検討し対応する。そのためには、町民への説明とご理解が必要になる。

答 (総務課長) 施設の維持管理費、経費の削減で財源を確保するために、現在、公共施設更新計画案の作成を行っている。令和2年度(令和3年3月)までに策定し町民にお知らせする。

問 進んでいない原因は、なにか。

答 (町長) 公共施設の統廃合や合理化、簡素化は総論賛成でも各論反対で行政としてもこれまでなおざりになっている部分があり、対応をしてこなかった。反省している。

問 町の基本計画では、施設更新費用圧縮率の目標は、何%か。根拠の額と項目は。

答 (総務課長) 4年間で4%。つまり年1%。29年度決算で維持補修費が1億2733万円。4年間で509万3000円。

問 この程度の削減では成果がえられないのではないのか。資産の整理も視野にいれて思い切った改革が必要ではないのか。

答 (町長) 口で言うのはやさしいが、実践するとなれば相当なエネルギーと痛みを伴う事になる。

問 それは、貴方の仕事であり、最終的に貴方がきめることだ。28年3月策定から現在まで各年度の削減成果報告をして頂きたい。

答 (総務課長) 了解した。

今回質問した次の内容は、紙面の都合上割愛した。

定住促進策である住宅地の造成について



**5力所の宅地造成の優先順位
歴史民俗資料館の展示内容見直し
学校給食費の段階的補助は**



**情報発信のためにも
町長のブログ開設を**

ズバリ!聞きます

- 問** 天皇陛下御即位奉祝の対応。
- 答** (町長) 町民171名の記帳は県を通じて宮内庁に届けられた。
- 問** 歴史民俗資料館の銀象嵌銘大刀と復元された大刀の展示見直し。
- 答** (町長) 世界に誇る出土品。しっかりと対応していく必要がある。
- 問** 南校区・中央校区に渡る江田川河川敷スクールゾーンに防犯灯が無い。子どもを守る安全対策は。
- 答** (町長) まず現場を見て状況をしっかりと確認し検討する。
- 問** 5力所の宅地造成の場所は。
- 答** (まちづくり推進課長) 老人福祉センター・旧南小プール跡・ふれあい広場・消防菊水分署の上・農就センター跡。今回の補正で老人福祉センターを宅地造成。本年度の宅地造成候補地は旧南小プール跡・ふれあい広場を提案。
- 問** 町有地宅地造成の優先順位は。
- 答** (町長) まずできることから優先的にやり、早く効果を出す。
- 問** 玉名圏域・山鹿市定住自立圏共生ビジョンで相互利用の状況は。
- 答** (社会教育課長) 30年度、町民の玉名市図書館利用666人、山鹿市図書館利用93人。総合グラウンド利用は、玉名市民255人、山鹿市民135人。
- 問** 菊水地区学校跡地の利活用は。
- 答** (まちづくり推進課長) 執行部で検討し、9月以降に了承されれば、検討委員会を立ち上げる。
- 問** 学校給食費の段階的補助は。
- 答** (町長) 是非やりたいという考えは、まったく変わっていない。
- 問** 正規・臨時・非常勤・今後は会計年度職員も加わる。職員の健康と働き方、そして、共同調理場の職員の雇用を守る考えは。
- 答** (町長) 健康無くして仕事はできない。職員の処遇も含めて今後の検討課題。

- 問** 県からの事務権限委譲が多くなっているが、RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)の導入や抜本的な組織改革などを考えているか。
- 答** (町長) 平成30年度までに11事業の権限委譲があり、熊本県から125万2000円の交付金があった。多岐に渡る新たな事務や地方分権に伴う業務量の増加により、職員への負担が増していると認識している。費用対効果で採算がとれるならばRPAの導入も検討していく。抜本的な組織改革とまではいかないが、各部署の事務分掌の見直しによる組織再編などについて、今一度検証したいと考えている。
- 問** 和木町のホームページの閲覧数と、金栗四三ミュージアムなど
- 答** (町長) SNSを理解して機会があつたらやりたいという思いは持っている。
- 問** 近隣市町の首長は、フェイスブックやブログをしている。町長も町のPRのために始めてはどうか。
- 答** (まちづくり推進課長) トップページのアクセス数は、平成29年度が29万7154件、30年度は43万3917件で、年間総数では13万6763件増加している。金栗四三ミュージアム等の開館が影響していると思う。
- 問** 近隣市町の首長は、フェイスブックやブログをしている。町長も町のPRのために始めてはどうか。
- 答** (町長) SNSを理解して機会があつたらやりたいという思いは持っている。
- ※RPAとは**
人工知能を使った事務処理の省力化

廣田彩花選手

世界へ羽ばたけ!! GO! TOKYO



バドミントン女子ダブルスで2020東京五輪出場を目指す和木町電門出身の廣田彩花選手(24)が今回帰省され、6月20日(木)和木町役場本庁と母校の菊水西小学校、菊水中学校を訪問された。廣田選手は現在アメリカンベイ岐阜所屬(旧、岐阜トリッキーパーンダース)同じ熊本県出身の福島由紀選手(26)とのペアで世界ランク2位につけている。今年2回目の来庁、まずオーストラリアオープン優勝の

報告と東京五輪出場権獲得に向けての意気込みを高巣町長に報告された。

また、私の故郷和木町に帰省するとホットし心が落ち着きます。温かい町だなとあらためて感じますと話されました。

日頃、世界を飛び回る廣田選手にとって、故郷和木町はいちばん落ち着ける場所だと感じました。

報道陣の中から、実家に帰って何がいちばん食べたいですかと質問されるとお母さんの作ってくれるハンバーグが食べたいですと、うれしそうに答えられました。

母校の菊水西小学校では、おむかえ式がホールで行われ後輩から熱烈な歓迎をうけられました。

廣田彩花先輩が訪問されるとの連絡に、どのようなお迎えをしようかと高学年の子どもたちが中心となり相談し、「ホールの飾りつけ」「金メダル作り」「似顔絵寄せ書き」「みんなでエールを送る」に決めて準備をし、前日には6年生が中心となってエールの練習、「ぼんぼんの準備」などみんな楽しみにされていたそうです。

訪問当日、緊張した様子の子どもたちでしたが、夢に向かって努力する廣田先輩のメッセージをしっかりと受け止められました。

【子どもたちの声】
「オーラがすごかったです。」
「腕や脚の筋肉がすごくて、迫力がありました。」
「笑顔がすてきで、やさしく

「周りの期待に応えられるように頑張っているのはすごいとおもいました。」
「ありがとうといってくれて、うれしかった。」
などいろいろな感想をよせられました。

最後に「フレーフレーさやか」とみんなからエールをもらい、菊水西小学校の校歌をいっしょに歌って母校をあとにされました。

次に、菊水中学校訪問では、試験期間中ということもあり休み時間を利用しての訪問となりました。

短い時間のなかで、握手や記念撮影、生徒たちも先輩アスリートの訪問に興奮した様子でした。

今回の帰省で、母校の後輩たちをはじめ和木町の町民の皆様、応援してくださるすべての皆様の声が廣田選手のこれからの選考試合の糧になることと思い、今後のさらなる活躍を期待したいと思います。

(編集委員 坂本 敏彦)